

# 平成28年度 岐阜県立多治見高等学校 いじめ防止委員会 議事録

日時：平成29年2月22日（水）

場所：多治見高校 桔梗会館1F

## 1. 開会の挨拶（学校長）

- ・本年度は特に大きな事案はなく、生徒は落ち着いているが、いじめはいつでも起こりうるということを我々職員は常に認識し、目を配る必要がある。

## 2. 平成28年度の取り組みの報告と説明

### ①年間活動報告（生徒指導部長）

【別冊『平成28年度岐阜県立多治見高等学校いじめ防止委員会』p.1 参照】

### ②いじめ調査結果（生徒指導部長）

【別冊『平成28年度岐阜県立多治見高等学校いじめ防止委員会』p.2～5参照】

### ③事案報告（事後報告と経緯）

【別冊『平成28年度岐阜県立多治見高等学校いじめ防止委員会』p.6～8参照】

## 3. 質疑応答

特に質問なし

- 生徒指導部
  - ・いじめ調査年3回実施→学校に満足している生徒が多いが、少数にはからかひやかし、誹謗中傷などを見たという傍観者の態度の問題や、教員などに「相談した」という意見がなかったことが問題であった。
  - ・大きないじめの問題は無かった。教育相談を中心に早期対応がされていた。
- 教務部
  - ・「アクティブ・ラーニング」の取り組みの中で、自分の意見を筋道立てて相手に伝えることのできる力をつけさせて、社会に出てから役立たせたい。
- 進路指導部
  - ・健全な進路目標を持っている子は嫌がらせをするような子にはならない。このことから、進路目標を早期に明確にさせる必要がある。
  - ・人前で話ができる、人の話をきちんと聞くことができる力が必要。
- 特別活動部
  - ・部活動や特別活動などの集団活動を通して、仲間同士認め合うことのできる指導が必要である。
  - ・小、中学生とのボランティア活動を通して、助け合いの心を養うことも大切。
- 保健厚生部
  - ・安心して相談できる場（教育相談）があり、そこを中心に縦と横のつながりや連携がしっかりできている。
- 渉外部
  - ・定期的に保護者の方と実際に会う機会が一番多いのが渉外部なので、中継役として職員に伝えていく。
- 図書視聴覚部
  - ・図書館が「居場所」である生徒が少なからずいる。そのような生徒たちにとって、快適な居場所になるように環境整備に努めている。
  - ・「孤独になれる」「孤独であっても違和感を感じさせない」環境ができている。
  - ・図書館が帰属意識を高めさせたり、楽しめる場となるように工夫している。

- 自然科学部
  - ・ 郊外研修を通して、集団の仲間意識を高めている。
  - ・ 課題研究では、仲間の意見を聞くことからお互いを認め合うことにつながっている。
  - ・ 3年間同じクラスメイトであることで、関係がこじれると修復が難しい。そのことを常に教員が認識して、そうならないように連携を取りながら対応している。
- 1年学年主任
  - ・ まだ幼い考えを持っており、いたずらっぽいことや悪ふざけのようなことを見過ごすことなく、細かなところに目を配り、早期に対応できた。
- 3年学年主任
  - ・ 若い子たちが「打たれ弱い」傾向にある。ある程度の負荷は必要であるが、大人の言葉がけに注意が必要。

#### 4. 指導・助言

##### ■スクールカウンセラー

- ・ いじめでの深刻な相談は無かった。アンケートの結果からも、いじめは少ないと感じる。学校充実度が高いということと、いじめが少ないことは大いに関係している。
- ・ 「先生に相談しなかった」というのをどのようにとらえるか。相談しても仕方がないと思っているのか、相談するほどのことではないということなのか。
- ・ いじめは事の内容ではなく、対象となった子が「どうとらえるか」に重きを置く。
- ・ 人との関係を上手にできない子供が多い。社会性を育てることによっていじめを減らすことにつながる。

##### ■保護者代表

- ・ いじめ調査については、子供たちが本当のことを書いているのか不安であったが、このように説明していただき、資料を確認すると安心する。先生方の細かな対応をととてもありがたいと感じる。

##### ■地域代表

- ・ 「認知」の問題が難しい。(過去に甲子園出場が決まった高校での野球部の事案から) 事によっては楽しんでやっているものが、受け手側の取り方次第でいじめになる。悪ふざけととらえるのか、いじめととらえるのかがとても難しい。先生方も大変だと思う。

#### 5. 閉会のあいさつ(教頭)

- ・ 今年度は、教育相談を中心に連携がしっかりととれていたことから大きな事案がなかった。今後も報告、連絡、相談を密にしていく。
- ・ 授業の少し前には教室に入り生徒を観察するなど、全職員が常にアンテナを高くする。早期に生徒の変化に気づくことが大切。